

平成23年度通常総会会長挨拶

平成23年5月27日

平成23年度の通常総会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、何かと、ご多忙のところ本総会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃から、全建の事業活動・事業運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本日の総会におきましては、平成22年度事業報告及び収支決算、並びに平成23年度事業計画及び同収支予算とともに、一般社団法人化に向けて本会の定款の変更についてもご審議をいただくことになっております。なお、平成23年度の事業計画、収支予算の概要については例年3月の評議員会においてご説明申し上げるところであります。本年は震災の関係で3月の評議員会を中止いたしました。そのため、本日改めてご説明いたしますので、よろしくご審議のほどお願いいたします。

さて、建設業界は、世界的な景気低迷の中、大幅な公共投資の削減などにより、大変厳しい環境下におかれております。今後の先行きにつきましては、東日本大震災の影響から様々なリスクが予想されます。とりわけ、電力供給の制約やサプライチェーン立て直しの遅れ、原油価格上昇の影響等により、景気の下振れが懸念されるほか、デフレの影響や、雇用情勢の悪化などが心配されており、建設業界にとりましても大変厳しい状況が続くものと思われまます。

そのような中でも、建設企業は宮崎県で発生した口蹄疫被害、奄美大島などにおける集中豪雨による土砂災害など、被害を最小限に抑えるべく災害の発生時には、昼夜を問わず過酷な作業を遂行いたしております。

今般発生した東日本大震災においても、我々の仲間が、自らも被災者であるにもかかわらず、建設業の社会的使命を果たすため、現在もなお、復旧作業に全力で取り組んでおります。中には、避難所から通いながら作業に従事しておられる方もいらっしゃいます。私も震災後2度ほど被災地に入らせていただきましたが、このような姿を目の当たりにした時、建設業に携わる者として誇りに感じるとともに、感謝の気持ちで一杯になりました。

また、被災地以外の各県協会からも、燃料、重機、物資、義援金などのご協力を頂き、改めて全建の結束力を感じた次第です。

日本はこれまでに何回もこのような自然災害から立ち直って来ました。我々の先輩たちの果たした役割に思いを馳せ、今こそ日本全体として、国民が夢を持ち、被災者の皆さんが希望を持つビジョンを掲げ、世界が注目する中、世界に誇れる復興を果たさなくてはならないと考えています。そうでなくては、国際的信用力や安全保障の問題にも関わってくるのではないかと心配をしております。

また、防災・減災対策や、計画的・継続的な社会資本整備の重要性が再認識された今、我々建設企業はどのような厳しい状況であっても、国民の安全・安心な暮らしを守り、地域の経済を支え、地域の雇用を確保するという私たちの社会的使命を果たし続けなければなりません。そして、そのためには、日頃から適正な事業活動に取り組み、法令遵守、コンプライアンスの徹底は当然のことながら、企業の社会的責任への取り組みが重要であります。

本会は、公益法人制度改革に適切に対応すべく、平成20年1月に事務局内に改革に向けたプロジェクトチームを立ち上げ、2年余りにわたって検討を続けてまいりました。その結果、「一般社団法人」への移行が適切であるとの結論に至り、昨年11月の理事会において「一般社団法人」への移行を目指して手続きを進めることとして内諾をいただいております。本日の総会において一般法人化に向けて、定款の改定についてご審議いただくこととなっておりますので、よろしくご審議のほどお願いいたします。

本日は、総会終了後、関係団体の幹部の方々のご臨席をいただき、懇親パーティーを開催することといたしておりますので、引き続きご出席を賜り有意義な情報交換に努めていただきますようお願い申し上げます。

結びにあたり、各県協会、そして会員企業のますますのご活躍とご発展を祈念申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。